IXC

バイブコーディングアプリ リリース前検証チェックリスト

権限とデータ、外部呼び出しとデプロイの例外を確認する実行表

導入の判断と実行のためのIXC実務資料

2026.09 発行 · 日本語版 · PDF + Excel記入様式

この資料の活用

生成AIツールで作ったアプリの期待する動作を整理し、リリース前に確認する例外と後続の対処を記録します。

バイブコーディングでサービスを作った開発者、生成AIツールの成果物を引き継ぐ製品担当者

目次

01 実装された動作と意図した規則を突き合わせます 3

02 アカウントと入力の境界を確認します 4

03 外部呼び出しの失敗と繰り返しを確認します 5

04 データとデプロイ設定を確認します 6

05 見つかった問題を修正と再検証につなげます 7

記入と活用

PDFの基準を読み、空欄に実際の条件と未確認の項目を記入します。同じ部門のExcelには資料ごとの記入シートがあります。記入例は、実際の顧客事例や確定した見積もりと区別してお使いください。

出典を明記すれば、社内検討と業務遂行のために引用・改変してご利用いただけます。最新のファイルは www.ixc.co.kr/ja/assets でご確認ください。

実装された動作と意図した規則を突き合わせます

画面が正常に開くだけでは、製品の規則を確認したことにはなりません。まず主要フローの期待結果を書き出します。画面とコードから把握した現在の動作、製品担当が意図した動作、まだ決まっていないポリシーを分けます。

要件復元表

主要フロー	意図した規則	現在の動作・証跡	未定のポリシー・担当
記入例：有料機能の利用	決済済みアカウントのみ利用可能	一般アカウントでアクセスした結果を記録	無料トライアルの範囲を確認

準備するもの	使用目的	確認する内容
試験用アカウント二つと、管理者の役割	所有者・役割の境界を確認	各アカウントの権限とデータ
試験用の注文・ファイル・コンテンツ	状態の変化と削除を確認	初期化・後片付けの方法
候補ビルドと変更一覧	結果の対象を固定	バージョン・デプロイ環境
外部呼び出し用の試験環境	失敗・重複の経路を確認	テストキー・使用量の制限

点検は、管理権限のある試験環境と試験データで行います。期待結果が未定の項目はPASSとして扱わず、ポリシー確認の対象として残します。正常経路を一つ確認したら、同じフローの失敗条件へ広げます。

アカウントと入力の境界を確認します

権限は、画面でメニューを隠すこととは区別して考えます。他のアカウントのデータのURLにアクセスしたとき、サーバーがリクエストを拒否するかを確認します。入力は、空の値、境界値、重複リクエストで保存結果がどう残るかを見ます。

点検フロー	実行する条件	期待結果
データの所有権	アカウントAの試験データにBでアクセス	読み取り・変更を権限に応じて制限
管理者機能	一般アカウントで管理者用パスにアクセス	サーバー側で権限を確認
セッション終了	ログアウト後に前の操作を再リクエスト	認証が必要な操作を拒否
入力の境界	空の値・負の数・最大値を超える値	エラーの案内と保存状態が一致
重複送信	同じ申込・購入を繰り返し送信	意図しない重複作成を防止

権限・入力の検証記録

フロー・条件	期待・観察結果	状態・証跡	対処担当

ファイルアップロードがある場合は、許可する形式・サイズと閲覧権限を別途確認します。画面のエラー文言とサーバーの保存結果が同じ意味かを比べます。権限の漏れや金額・データの誤りは、利用者への影響と併せて残し、修正の順序を決めます。

外部呼び出しの失敗と繰り返しを確認します

モデル呼び出し、SMS、地図、決済のように外部サービスがつながる機能は、成功だけでなく遅延・失敗・再試行の経路も確認します。利用者が再読み込みしたり同じボタンをもう一度押したりしたときに、リクエスト数とデータがどう変わるかを記録します。

点検項目	実行する条件	残す証跡
再試行	失敗後に同じリクエストを繰り返す	呼び出し回数・最終状態
応答遅延	合意した時間内に応答が返らない	待機の案内・中断・再開の動作
使用量の制限	アカウントごとの制限に到達	サーバー側の制限・画面の案内
エラー情報	外部APIがエラーを返す	利用者向けの文言・運用ログ

外部呼び出し・費用の点検表

連携・フロー	制限・再試行の規則	実行結果・証跡	担当・対処
記入例：回答の生成	重複送信の処理・再試行の上限を指定	同一リクエストに対する呼び出し回数を記録	開発担当が検討

LLM機能がある場合は、入力文を命令として受け取り、データへのアクセスや外部への操作を実行するかも追加で検証します。ツールの実行権限、出力の後続利用、外部へ渡す情報の範囲を分けて見ます。モデルの応答をそのまま実行する経路は、別のシナリオとして記録します。

データとデプロイ設定を確認します

開発環境で通ったフローを、デプロイ候補環境でも改めて確認します。認証ドメインとコールバック、決済環境、環境変数の漏れは、コードが同じでも異なる結果を生みます。設定名と用途は記録しますが、シークレットの値そのものは結果表に写しません。

データ・デプロイ点検表

点検項目	期待する状態	証跡・結果	担当
アカウント・アップロードデータへのアクセス	所有者と役割に合う権限		
外部へ送信するデータ	必要なフィールドのみを送信		
削除・退会フロー	製品ポリシーと処理状態が一致		
環境変数・認証ドメイン	候補環境の設定と一致		
決済・Webhook環境	試験・本番の設定を区別		
復旧と運用ログ	前のバージョンへの復旧・エラー追跡が可能		

> **記入例**
>
> ログインのコールバックURLが開発ドメインのまま残っている場合は、候補環境でログインフローを再実行します。設定を直したビルドのバージョン、変わった項目、実際に到達したURLを記録します。変更した設定とつながる別のログイン方式も改めて確認します。

復旧方法は、コマンドが用意されているかではなく、実行した結果で確認します。データ構造の変更がある場合は、前のバージョンのアプリと組み合わせても動作するかも検討します。個人情報の取り扱いポリシーを確認する担当と、実際のデータフローを検証する担当を分けて記録します。

見つかった問題を修正と再検証につなげます

いくつ通過したかよりも、どの利用者フローが未確認かが次の作業を決めます。FAILは修正する問題、BLOCKEDは実行準備の問題、NOT RUNは未実行の項目として分けます。状態を変えるだけでなく、次の確認に必要な条件を添えます。

リリース前の対処一覧

項目・状態	利用者への影響	担当・完了予定	再検証の範囲・証跡
記入例：他アカウントのファイル閲覧 / FAIL	データがアカウント間で露出	権限検証の修正担当者を指定	直接アクセス・共有リンク・一覧を再確認

見つかった状態	次の行動	確認する結果
期待結果が未定	製品規則の合意	判定できるシナリオ
主要フローの失敗	原因の修正と影響の検討	修正確認・隣接フローの回帰
環境でブロック	アカウント・連携・データの準備	同じ条件で再実行
複数領域の規則の漏れ	要件の復元と検証範囲の設計	主要フロー・例外の一覧

検討の記録には、ビルドと範囲、解決できなかった項目、リリース前に完了させる条件を残します。IXCの「AIで作られたアプリの検証」では、要件の復元、例外フローの検証、修正が及ぶ回帰範囲を併せて整理します。記入した要件復元表が、ご相談の出発点になります。

発行・ご利用について

現在のビルドと要件復元表、失敗したフローや確認できなかったフローをもとに、リリース前の検証範囲をご提案します。

IXC Corp.（アイエックスシー）

代表取締役 ナム・ギチョル | 事業者登録番号 109-86-56732
大韓民国 江原特別自治道春川市後石路462番キル7
春川ICTベンチャーセンター4階408号
+82-33-242-0210 | info@ixc.co.kr

www.ixc.co.kr

www.ixc.co.kr/ja/services/ai-app-testing

www.ixc.co.kr/ja/assets/ai-app-release-checklist

参考資料

IXC AIで作られたアプリの検証

https://www.ixc.co.kr/ja/services/ai-app-testing

OWASP Authorization Cheat Sheet

https://cheatsheetseries.owasp.org/cheatsheets/Authorization_Cheat_Sheet.html

OWASP Top 10 for Large Language Model Applications

https://owasp.org/www-project-top-10-for-large-language-model-applications/